

令和7年度
自立活動指導事例集

秋田県特別支援学校教育研究会 研究部会「教育課程編成部会」

児童生徒の主な状態像について

＜各校の自立活動の指導において、課題となっている児童生徒の主な状態像＞

各校における自立活動の指導において、特に課題となっている児童生徒の状態像を以下の2つの視点で整理しました。

○行動理解・心理的側面への支援が必要な児童生徒

①集団参加や適切な気持ちの表現等に課題があり、不適切な行動で表出するケースが多い。

- ・自分に自信がない児童生徒の自己肯定感を育むための指導
- ・適切な自己理解に導くための指導
- ・こだわりが多く、融通が利かない児童生徒への指導
- ・不安が強く、何度も同じことを聞く児童生徒への指導

②学年が上がるにつれ、不適切な行動習慣の修正が難しくなる傾向がある。

- ・自分の思いどおりにならない場合に、破壊的な言動や他人のせいにする
- ・自分の話したいことは話すが、相手の話を受け入れない

以上の課題解決に向け、各校の具体的な指導事例について示します。

2 各校の指導事例

- 0 1 秋田県立視覚支援学校
- 0 2 秋田県立聴覚支援学校
- 0 3 秋田県立きらり支援学校
- 0 4 秋田県立比内支援学校
- 0 5 秋田県立比内支援学校かづの校
- 0 6 秋田県立比内支援学校たかのす校
- 0 7 秋田県立能代支援学校
- 0 8 秋田県立支援学校天王みどり学園
- 0 9 秋田県立栗田支援学校
- 1 0 秋田県立ゆり支援学校
- 1 1 秋田県立大曲支援学校
- 1 2 秋田県立大曲支援学校せんぼく校
- 1 3 秋田県立横手支援学校
- 1 4 秋田県立稲川支援学校
- 1 5 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校

年度	令和7年度	学部・学年	中学部2年		
教科等：自立活動		科目等：		指導者：	
年間目標 ①相手や場に応じた人との関わり方を身に付け、学校生活で実践できるようにする。 ②体の動かし方や手指の巧緻性を高め、身に付けた力を日常生活の中で進んで生かそうとする態度を育てる。 ③iPad や視覚補助具を自主的に使い、生活に生かそうとする姿勢を育てる。				教科書： 参考資料：	
前期					
題材・単元名		指導内容		予定	実施
「気持ちを伝えよう①」		<ul style="list-style-type: none"> 相手や場に応じた適切な伝え方 言葉遣い 態度 		10	
「調べよう、記録して伝えよう①」		<ul style="list-style-type: none"> 拡大読書器や iPad の活用 伝え方、話し方 		10	
「健康な体を目指そう①」		<ul style="list-style-type: none"> 食べる量と時間配分 箸と、スプーン、フォークの使い方 食事のマナーと片付け 体の動かし方 		10	
「安全に移動しよう①」		<ul style="list-style-type: none"> 白杖の使い方 安全な歩き方（玄関、廊下、階段等） 通行時の自分の存在の伝え方 		7	
「制作しよう①」		<ul style="list-style-type: none"> 手指を使った小物製作（アイロンビーズ、ひもとおしなど） 		15	
				前期計	前期計
				52	
後期					
題材・単元名		指導内容		予定	実施
「気持ちを伝えよう②」		<ul style="list-style-type: none"> 相手や場に応じた適切な伝え方 言葉遣い ・態度 		15	
「調べよう、記録して伝えよう②」		<ul style="list-style-type: none"> 拡大読書器や iPad の活用 伝え方、話し方 		13	
「健康な体を目指そう②」		<ul style="list-style-type: none"> 食べる量と時間配分 箸、スプーン、フォークの使い方 食事のマナーと片付け 体の動かし方 		10	
「制作しよう②」		<ul style="list-style-type: none"> 手指を使った小物製作（アイロンビーズ、ひもとおしなど） 		10	
「安全に移動しよう②」		<ul style="list-style-type: none"> 白杖の使い方 安全な歩き方（玄関、廊下、階段等） 通行時の自分の存在の伝え方 体の動かし方 		15	
				後期計	後期計
				53	
				年間計	年間計
				105	
〈実施状況〉					

高等部■年	氏名	担任	作成日 R7年5月31日
(三)長期 目標 程度)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の聞こえやロジャーの管理について理解を深め、必要な時に適切な支援を求め、聞きやすい環境を整えることができる。 場や相手の状況に応じたコミュニケーション方法を知り、状況に応じて適切な手段を用いてやり取りする。 身に付けた語彙力や表現力を様々な場面で活用し、状況等を具体的に書く。 		
今年度の 指導 目標	<ul style="list-style-type: none"> 様々な場面でロジャーの利用を促し、より効果的なロジャーの活用方法を考える。 場や相手の状況に応じたコミュニケーション方法を知り、やり取りする。 必要な語彙を増やし、多様な表現を用いて考えや気持ちを書いて伝える。 		
今年度の 指導 内容	様々な場面でロジャーを活用し、より効果的な活用方法について考える機会を設定する。 【各教科等】【学校行事・総合的探究】【自立活動】【特別活動】	様々な場面での場や相手の状況に応じたコミュニケーション方法を複数提示し、実践することで、正確に情報を得るために相手に依頼する方法を考える。 【各教科等】【自立活動】【特別活動】【総合的な探究】	ニュース紹介やテーマ日記、作文指導で知識や語彙を広げ、様々な語彙表現を知ったり活用したりする機会を設定する。 【学校行事・総合的な探究】【自立活動】【特別活動】
前期 (4月～9月)		評価日 R7年10月31日	
具体的 な 内容	<ul style="list-style-type: none"> 様々な場面でのロジャーを活用し、状況に応じたロジャーの有効活用やメリット・デメリットについて理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 場や相手の状況に応じたコミュニケーションの方法を知る。 指文字や日常でよく使う手話を覚えて使う。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文やテーマ日記を通して、気持ちや考えたことを振り返って具体的に書く。 ニュースを見たり新聞を読んだりして考えたことを、学習した語彙や表現を使って書く。
手 立 て	<ul style="list-style-type: none"> 他校で模試を受けたり、大学で模擬授業を受けたりする機会を設定する。 行事でのロジャー活用を促し、振り返りによるフィードバックを図る。 自ら準備・管理できるよう、メモ帳の活用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 音声文字変換アプリや手話、文字、指文字などの複数のコミュニケーション手段を提示する。 朝学習や朝の SHR で、手話を学習する機会を設定する。授業でキーワードとなる言葉は、意味理解を含めて手話でも丁寧に押さえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言い換えの表現や適切な表現を教師が提示する。 お手本となる作文や書き方の型を提示し、構成メモを作成する時間を設定する。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 前期は他校での模試を実施しなかった。後期に実施をする。 行事では、教師の声掛けによってロジャーを話者に依頼して使用した。必要感をあまり感じておらず、自分から依頼することはなかったが、英語の学習では、「ロジャー必要ですか」と確認することがあった。 メモ帳やスマホのリマインダー機能の活用を促したが、日々の声掛けがないと行動に移すまでには至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で自分の考えを発表する際に、教師や友達に手話を確認しながら、手話をつけて話そうとしている。 大学見学に向けての学習で、様々な情報保障を実際に試したことで、タイムリーに情報を得るためにはノートイクや音声認識アプリの塩字が有効であると気付くことができた。 普段の授業では、話者を見ずに音声のみで情報を得ようとすることが多い。 	
後期 (10月～3月)		評価日 R7年 月 日	
具体的 な 内容			
手 立 て			
(年 間) 評 価			

学部	中学部	作成日		作成者	
年・組		氏名			
児童・生徒の実態					
<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠障害があり、日中に眠気が生じやすい。 ・活動に過集中してしまい、終了時間になっても活動を終わることができないことがある。また、次の活動を促す教師からの言葉掛けに対してイライラすることがあり、物を叩くなどの表現をする。あらかじめルールや様々な想定を伝えておくことで、落ち着いて活動を切り替えられることもある。 ・過去の失敗経験から自信がもてず、行動することをためらいがちであるが、スモールステップで成功経験を積むことで不安感が軽減される。自分の気持ちや要求を適切に相手に伝えられなかったり、相手の意図が理解できなかったりするが、イラスト等で示すことで理解が促進されることもある。 					

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠障害があり、日中に眠気が生じやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の行動を注意されたときに、イライラを静められなくなることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の失敗経験から自信がもてず、行動することをためらいがちになることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に過度に集中してしまい、終了時間になっても活動を終わることができないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を常に動かしている傾向がある。 ・気付かないうちに姿勢が崩れていることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちや要求を適切に相手に伝えられなかったり、相手の意図が理解できなかったりする。

いくつかの指導目標の中で優先する目標

指導目標
<ul style="list-style-type: none"> ・体調に合わせ、登校時間や活動内容を調整する。 ・自分の気持ちや要求を適切に相手に伝える。 ・活動に見通しをもち、時間を見て次の活動に移る。

指導目標を達成するために必要な項目

健康の保持					心理的な安定			人間関係の形成				環境の把握					身体の動き					コミュニケーション				
①	②	③	④	⑤	①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
○					○					○						○	○					○	○			

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・手を上げて教師に困っていることを伝えたり、自分の気持ちや要求を適切に相手に話したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に見通しをもち、あらかじめ決めたスケジュールに沿って、時間を見て次の活動に移る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人、保護者と合意形成を図りながら行事等の参加方法や活動を決めて参加する。

学部	高等部	作成日		作成者	
年・組	2-1	氏名			

児童・生徒の実態

基本的な生活習慣はある程度身に付いているが、経験不足な部分が多く、着替えや掃除、箸の使い方、身の回りの整理など、衛生面への意識が低い。自分から相手に明るく話し掛け、打ち解けることができる。一方で、相手の印象に敏感で、関わりに慣れるまで時間が掛かることがある。予定変更や不安な授業、嫌なことを思い出すと、走り出したり、気持ちが不安定になったりして、全体の活動に参加できなくなる。制作活動や運動、見通しのある活動には、集中して長い時間取り組むことができる。また、友達や教師と関わるのが好きで、友達がいることで活動に向かったり、教師に不安な気持ちを話したりして、落ち着いて過ごす場面が増えた。不安な気持ちを伝えられる相手も増えた。

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
生活リズムは整っている。てんかん発作を抑え、気持ちを落ち着ける薬を服用している。	気持ちを伝えられる相手が増え、安心して過ごしている。見通しがもてると参加できる。	友達や教師との関わりが好きな一方で、相手によっては慣れるまで時間が掛かる。	視覚的な情報や事前説明があれば、見通しをもって活動に向かう。初めて行う学習や予定変更が苦手。	体を動かすことが好き。手先の細かい作業や書字は苦手だが、制作などは好きで進んで取り組む。	会話が好き。敬語を使ったり、年下の子に丁寧に関わったりするなど、相手や場所に合わせて会話できる。

いくつかの指導目標の中で優先する目標

指導目標
<ul style="list-style-type: none"> ・活動に見通しをもち、参加できる活動や一人でできることを増やす。 ・疲れや不安な気持ちが強いことに気づき、休憩をとる選択をしたり、自分の気持ちを話して、安心した気持ちで授業にさんかしたりするなど、落ち着いた気持ちで過ごす。

指導目標を達成するために必要な項目

健康の保持					心理的な安定			人間関係の形成				環境の把握					身体の動き					コミュニケーション					
①	②	③	④	⑤	①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	
					○	○	○		○	○						○	○	○		○		○					○

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	
活動に見通しを持つことができるように事前に予定確認を行い、見本や手順表などを提示する。できたことは即時に称賛する。	疲れや不安な気持ちがあるときに、休憩時間や活動への参加時刻を提示したり、活動参加に関する選択肢を設けたりする。

学部	高等部	作成日		作成者	
年・組	3年2組	氏名			
児童・生徒の実態					
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体の健康を気にしている。 ・人に依存する傾向がある。誰かと一緒にいたい。 ・承認欲求が強い。 ・整理整頓が苦手。 ・自己評価が高いことがある。 					

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・体調管理に気を付けて、体力作りをしようと意欲的である。	・ネガティブ思考になってしまったため、人と関わるときにトラブルになるときがある。	誰かに認められたい気持ち強い。	・身の回りの整理整頓ができず、忘れ物も多い。	・麻痺により、うまく両手が動かせないことから、出来映えが中途半端で終わってしまうときがある。	・できていないのにできていると自己判断することがある。

いくつかの指導目標の中で優先する目標

指導目標
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の状態や周囲の状況を正しく認識し、肯定的に捉えることができるようになる。 ・前向きな気持ちで人と関わり、先を見通して望ましい行動を選ぶことができるようになる。

指導目標を達成するために必要な項目

健康の保持					心理的な安定			人間関係の形成				環境の把握					身体の動き					コミュニケーション				
①	②	③	④	⑤	①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
					○	○	○	○	○	○	○			○	○						○					○

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容		
物語や絵を分析する活動を通して、状況を様々な角度や立場から捉えられるように練習する。2-(2)	委員会や学級の役割を通して、様々な人に積極的に声を掛け関わる経験を積むことで、自信を深められるようにする。3-(4)	教科の学習にロールプレイやアサーショントレーニングを取り入れ、自他の理解を促し望ましい行動を選ぶことができるよう練習する。

自立活動実態シート

07 秋田県立能代支援学校

学部	小学部	作成日		作成者	
年・組	6年	ふりがな 氏名			

児童生徒の実態

- ア 基本的生活習慣はほぼ自立しているが、焦ると、着替えや排せつの始末が不十分になる。夜尿症の診断があり、就寝時はおねしょシーツを敷いている。
- イ 食事では、箸の扱い方が未熟で手掴みや丸呑みすることがある。
- ウ 体幹が弱く姿勢が崩れやすい。体を動かすことは好きだが疲れやすい。ボディイメージが弱く、模倣がぎこちない。
- エ 手先が不器用で、つまむ、塗るなどの細かい作業が苦手である。爪噛みが多い。
- オ 普段と異なる状況において、周囲の状況が気になり落ち着かなくなる。私語が増えたり、手元に集中できず雑になったりする。特に、保護者が出入りする行事や校外学習の場合に多い。
- カ 旗やのぼりなどひらひらするものや、ラジカセなどの機器、エレベーターや自動ドアなどの機械へ強い固執がある。見付けると、気持ちが高まって触ろうとする。
- キ 平仮名を一文字ずつ読める。献立名や友達の名前は、文字のまとまりとして認識して読んだり書いたりする。
- ケ 外枠を意識しながら、枠の中に大まかに色塗りをすることができる。
- コ 初めての活動は見通しがもてず不安を感じることもあるが、大まかな流れを把握し、集中して活動に取り組む場面が増えてきている。
- サ 滑舌が悪く、「○○ください」「○○行きたい」等の助詞のない二語文で伝えることが多い。三語文以上になると主語が抜けてしまうなど、自分の気持ちや伝えたいことをうまく伝えられないことが多い。
- シ 不安や疲れによる、叫ぶ、髪を引っ張る、壁を叩くなどの注目行動が出やすい。次第にエスカレートし、自己抑制がきかない状態になることがある。
- セ 一方的に話すことが多く、相手の話を聞くことや待つことが苦手なため、会話が成立しにくい。
- ソ 一人遊びが苦手なため、常に他者を求める。

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
アイウ	アオコシ	スセ	ウオカキクケコス	イウエケ	キクサシス

いくつかの指導目標の中で優先する目標

指導目標

自分の気持ちや状況に合ったカードを選び、適切な対処方法で周囲に伝える。

指導目標を達成するために必要な項目

健康の保持					心理的な安定			人間関係の形成				環境の把握					身体の動き					コミュニケーション				
①	②	③	④	⑤	①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
					○	○			○	○	○		○		○				○		○	○	○	○		○

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

指導内容

本人の気持ちや状況を、言葉やカードを用いて本人に伝える。	本人の気持ちや状況に応じて、どうすれば良いか言葉やカードで相談する場を設定する。	気持ちや状況に応じて、適切な行動ができ、落ち着くことができたことを本人に伝える。
------------------------------	--	--

前期評価	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちカードから自分の気持ちを表したイラストを指さし、「〇〇が気になります」と自分の気持ちを教師に伝えるなど、気持ちが高ぶったときに、離れた場所で休憩する、水を飲むなど学習したことの中から自分から選んで実践するようになった。 ・〇〇のとき→△△するというように、効果的だった落ち着く方法を分かりやすく提示し、どんな状況でも落ち着く手段をとれるようにしたい。 	後期評価	<ul style="list-style-type: none"> ・朝、体調を示した4種類のカードから自分の調子を選んで伝えるようになった。調子が悪いときは、どのようにしたら良いか教師と確認することで、落ち着いて生活するようになった。 ・気持ちが高ぶる前に、不安などの自分の気持ちを教師に伝えることや、気持ちが高まったときの対処法に自分から取り組むことが増えた。また、落ち着くまでの時間が短くなった。不安定な様子の友達を見ると、コントロールが難しくなる。調子が良いときには「ドキドキする。見ない。」などと話して落ち着こうとするようになった。
------	--	------	--

次年度に向けて（申し送り等）

○不安な場面

- ・行事、保護者が出入りする日、集団が大きい学習、初めての活動、グループが決まっていないとき（すぐに相談できるTが近くにいない）
- ・一人で行動するとき、自由時間（何をすれば良いか分からず、不適切な関わりをしてしまう）
- ・検診（友達が不安定になる影響を受けて、不安になる傾向がある）

○気持ちが高まるもの

- ・旗やこいのぼり等ひらひらするもの、音楽機器、電気、スイッチ関係、エレベーター、学校玄関前の仕掛け時計（これらのものを触りたくなる）

○気持ちが高まったときの対処法※別紙「落ち着く方法」参照

- ・本人に冊子を渡している。冊子を見て確認すると落ち着く。

○気持ちが高まったときの対処法（教師が行うと有効な手立て）

- ・話をそらす（好きな話題：服の色「同じ」、秋田県～青森県の市町村、車、給食、天気など）
- ・2択クイズを出題する、選択肢を提示する「〇〇先生に報告しに行こう」

○事前（朝や活動前）に気持ちと対処法を本人と確認

- ①活動の流れを確認（スケジュール、活動グループ、教師など）
- ②「ドキドキしそうなことある？」「ドキドキしたらどうやって落ち着く？」
- ③「～したら落ち着けるから大丈夫」

○できたことへの価値付け

- ・「〇〇な気持ちになったけど、～したら落ち着いたね」「～したら落ち着くのが早くなったね」

○前向きな言葉掛け

- ・「大丈夫」「〇回やってみよう」「楽しすぎる気持ちだね、〇〇して落ち着いたらまたやろう」「今はドキドキしてるけど、〇分休んだら落ち着くよ」

○その他

- ・「同じもの」を見つけるのが得意で、安心する傾向にある。変化に弱いため、教材や活動の流れを同様にできるとよい。
- ・不安な気持ちのとき、不適切な行動で教師や友達の気を引こうとする。注目行動につながらないように、前向きな言葉掛けをするとよい。

自立活動の指導の一事例について

08 秋田県立支援学校天王みどり学園

生徒の実態

- ・自分の気持ちを言葉で表現することに苦手意識がある。
- ・校外学習など普段と異なる日課の日やその翌日は、気持ちが不安定になることが多い。
- ・学習への不安感や疲労感から、不安定になったり乱暴な口調で話したりする。
- ・失敗することや他人からの指摘を受け入れることが苦手で、失敗したことを他人のせいにする。
- ・作業的な活動を好み、集中して取り組むことができる。
- ・困っている友達に声を掛けたり手伝ったりすることができる。

自立活動の区分に即した整理

心理的な安定	不安定になると、悪態をついて走り回ったり寝転んだりする。
人間関係の形成	苦手意識のある学習で、気持ちが不安定になったり乱暴な口調で話したりする。
コミュニケーション	失敗したことを他人のせいにする。

優先する目標

自分の気持ちを相手に気持ちを伝えたり、いらいらする前に休んだり、自分なりの発散の仕方を身に付けたりする。

具体的な指導内容

- ・自ら発散できる方法を行っているときに、それを強化できるように「〇〇するといいね」と言語化し伝える。
- ・毎朝の聞き取りの中でそのときの気持ちや体調を話題にし、自分の変化に気付けるようにする。

※以上、自立活動実態シートより抜粋

1 生徒の様子

中学部から本校に入学した生徒である。高等部入学後、新しい環境の中で5月頃までは落ち着いて取り組んでいたが、6月以降、宿泊学習や校内実習、職業科などの学習を機に、気持ちの不安定さが増していった。その背景には、環境の変化による心理的な負担、何事も完璧にこなしたいという理想と思うようにできない現実とのギャップ、苦手な話し合い活動や書字の学習機会の増加、そして、思いどおりにいかない友人関係のトラブルなどが考えられる。

これらをきっかけに、教師や友達への暴言・暴力行為、授業中の離席や教室からの飛び出しなどが増え、集団参加が難しい状況になった。

以上のことから、学年部でのミーティング、学部会での情報共有、ケース検討会を実施して指導方針を確認し指導に当たった。

2 指導の実際

○個別指導

- ・本人に分かるようにイラストを入れたり、振り仮名を振ったりしたプリントを使って学校生活のルールを確認した。
- ・気持ちが不安定になったり、困りごとがあったりするときにはどうすればよいかを教師と一緒に考え、気持ちの表現の仕方について学ぶ機会を設定した。
- ・今後の学校生活における目標（なりたい姿）を教師と一緒に考える機会を設定した。

○日常生活の指導（朝の会・帰りの会など）

- ・毎朝の気持ちの状態の聞き取りとその日の時間割を教師と一緒に確認し、頑張るところと休憩するところなどを決めるようにした。どの学習なら参加できるか、どの程度休憩が必要かなどを本人と確認・相談し、学習への参加を少しずつ増やすようにした。

○作業学習

- ・作業内容と役割を明確化し、作業工程を細分化して示した。また、製品のチーフとしての役割を与えた。
- ・作業と作業の合間に適宜休憩時間を設けた。休憩が必要かを尋ね、自分のペースで作業に取り組めるようにした。

3 生徒の様子・変容

当初は「学校を辞める。どうでもいい」、「先生が近づいてこなければ、ああならなかった」などと発言したり、内容によって姿勢が崩れ、机に肘をついた姿勢で話を聞いたりしていたが、夏休み明けから面談という形に捉われず、日常的に対話をする時間を多く設け、本人の気持ちに寄り添い、頑張りを認めながら、よりよい方法や休憩の取り方を共に考えるようにした。

「休憩カード」を準備し、使い方を確認するとともに、担任とともに同じカードを所持した。また、一人で休める休憩場所を設定することで「休んでも大丈夫」という安心感を得ることができた。その中で、自分の気持ちや考えを話すことが増えたり、困りごとや不安、疲れなどを担任と相談し、参加する活動を決めたりすることが増えてきた。

自分から、「学校に登校して作業学習や部活動、障害者スポーツ大会を頑張りたい」と話すようになった。また、本人との対話を通して、次のように段階的に目指すゴールを設定した。

1年生終了時：今やっているカードを自分から出せるようになってほしい。

2年生終了時：言葉とカードを使いながら伝えられるようになってほしい。

3年生終了時：苦手なことや困っていることとか自分から話すことができるようになってほしい。

4 まとめ（現段階での成果と課題）

職員間の共通理解に

基づくチームとしての対応と生徒の気持ちに寄り添った指導、そして柔軟な環境調整を行ってきたことで、生徒は少しずつ自らの行動を振り返ったり、自分の気持ちを適切に表現したりできるようになってきた。また、表情も明るくなり、「学校生活を頑張りたい」という意欲が見られるようになってきた。

今後も、自立活動の視点に基づく多面的・多角的な実態把握と生徒の気持ちに寄り添った丁寧な指導、そしてチームとして組織的に対応しながら引き続き丁寧に指導を重ねていきたい。

① 実態把握

学習・生活の中で見られる長所や課題，指導に生かせる情報を把握する

障害の状態 興味・関心 発達・経験 等	指示どおりに動く	①初めてのことが苦手(固まる)	卓球
	規範意識が高い	②体力がない	動物観察
	正確性	③自分からの表現	スイーツづくり
	文章で表現できる	④気分の浮き沈みがある	パソコン
	やるべきことを考えて動く	⑤思い込みが強い	
	分からないことを質問できる		

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<p>②運動の機会が少ない</p> <p>②3食食べていないことがある</p> <p>②食事量が少ない</p>	<p>①見通しがもてないと不安になる</p> <p>③自己肯定感が低い</p> <p>④場面によって切り替えて動くことが難しい</p>	<p>③伝えることを整理することが難しい(自信がない)</p> <p>④自己の心情理解が難しい</p>	<p>①具体的な指示がないと動くことが難しい</p>	<p>②運動の機会が少ない</p>	<p>①③⑤様々な場や相手と関わる経験不足</p> <p>⑤他者の気持ちを考える力に課題</p>

② 中心課題と手立て

実態把握に基づいて指導すべき課題を焦点化し、授業で生かせる手立てを考える。

課題と手立て	<p><中心課題></p> <p>自分から(一人でも)様々な相手と関わる</p>	<p><手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活で会話や意見交換をする機会の保障 慣れない人との関わりの設定 様々な状況に応じた適切な言動を事前に体験し、実践する場の設定 即時評価から自信の向上
--------	--	---

③ 目標

必要性やこれまでの状況を踏まえて具体的な目標を設定する（長期：1年，短期：学期）

長期目標	<長期目標> ・様々な相手と関わり、状況に応じて一人で適切に行動する。
短期目標	<短期目標> ・自分から教師に挨拶や質問、相談する。

<目標を達成するために必要な項目を選定> チェック

1 健康の保持

- (1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事
- (2)病気の状態の理解と生活管理に関する事
- (3)身体各部の状態の理解と養護に関する事
- (4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事
- (5)健康状態の維持・改善に関する事

2 心理的な安定

- (1)情緒の安定に関する事
- (2)状況の理解と変化への対応に関する事
- (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事

3 人間関係の形成

- (1)他者とのかかわりの基礎に関する事
- (2)他者の意図や感情の理解に関する事
- (3)自己の理解と行動の調整に関する事
- (4)集団への参加の基礎に関する事

4 環境の把握

- (1)保有する感覚の活用に関する事
- (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事
- (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関する事
- (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動に関する事
- (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事

5 身体の動き

- (1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事
- (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事
- (3)日常生活に必要な基本動作に関する事
- (4)身体の移動能力に関する事
- (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事

6 コミュニケーション

- (1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事
- (2)言語の受容と表出に関する事
- (3)言語の形成と活用に関する事
- (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
- (5)状況に応じたコミュニケーションに関する事

④ 指導内容

選定した項目を関連付け、何を、どこで指導するかを整理する

<p>指導内容 と手立て</p>	<p>【指導内容】 様々な人と適切に関わる方法を身に付ける。 【手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人と関わりをもてるように、清掃報告など、作業場面の報告では様々な人に報告する必然性をつくる。 <p>【指導内容】 自分の気持ちや特性を理解して、文章化したり、相手に伝えたりする。 【手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な個別面談を実施し、担任と対話をする中で、自分の気持ちや考えを文章化できるようにする。 ・職業科の授業の中で、自分の好きなことや苦手なこと、なりたい自分に近づくために取り組みたいことなどを記入した目標達成シートを作成し、個別面談で担任と共有する。 ・書籍を参考に、継次処理と同時処理のどちらが得意か簡易的に分かるアンケートを実施して、自分の得意な学び方を生徒自身が確認したり、担任と共有したりする。 <p>【指導内容】 相手の気持ちや立場を考える。 【手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業科や道徳科の授業場面で自分以外の意見を聞いたり、相手の立場に立って物事を考えたりする機会や題材を設定する。 ・縦割りのグループで意見交換できるように、学習グループを工夫する。
----------------------	---

目標達成シート

好きなこと	NO.1の授業、グループ活動、授業の準備、掃除、音楽鑑賞、読書、運動
得意なこと、いいところ	NO.1の授業が得意、授業準備が得意、掃除が得意、読書が得意、音楽鑑賞が得意、運動が得意
得意なこと、苦手なこと	NO.2の授業が得意、授業準備が得意、掃除が得意、読書が得意、音楽鑑賞が得意、運動が得意
やってみたいこと、知りたいたいこと	NO.3の授業が得意、授業準備が得意、掃除が得意、読書が得意、音楽鑑賞が得意、運動が得意

卒業したら 家政の仕事に就きたい

国語	数学	理科	社会	英語	音楽	体育	美術	職業科	道徳
得意	得意	得意	得意	得意	得意	得意	得意	得意	得意

⑤ 変容

- ・道徳科では、学年縦割りのグループで、相手意見を受け入れたり、他者と一緒に人の立場を想像することができるようになってきた。一方的な思い込みはまだ強いが、「あなたが〇〇だったら？」という問い掛けを受けて、相手の立場を想像し、相手の気持ちを考えようとするが増えてきた。
- ・困ったときや不満があったときに、担任に相談することが増えた。始めのうちはメモ帳に書いて相談することが多かったが、今は少しずつメモ帳に加えて口頭で「話したいことがある」と相談するようになった。
- ・担任以外の慣れてきた教師に対して、自分から報告や教科連絡を聞きに行くことが増えた。

<子ども理解シート>

障害の種類・程度や状態等	精神遅滞 新版K式発達検査2020(認知・適応：DQ34、言語・社会：DQ35、全領域：DQ35：令和6年9月3日実施)
--------------	---

1 実態把握	○学習や生活のなかで見られる長所やよさ、△困難さ、苦手としていること ☆その他(障害の状態、発達や経験の程度、特性、興味・関心等) 【健】健康の保持 【心】心理的な安定 【人】人間関係の形成 【環】環境の把握 【身】身体の動き 【コ】コミュニケーション
<p>☆教師の真似をして板書をしたり、挨拶をしたりすることが好きである。【人】【コ】</p> <p>☆視覚的な支援を含めて事前に予定を伝えると、活動に見通しをもって取り組めることが多い。予定表を見ながら、紙に書いている。【心】【環】</p> <p>☆好きなキャラクター(鬼滅の刃、アンパンマン、ディズニー、NHKのキャラクターなど)を想像した一人遊びをすることが好き。リュックに付いている人形と一緒に朝の準備を行っていることがある。不安定なときにキャラクターを登場させ、励まされることで気持ちが安定してくる場合がある。【心】【環】</p> <p>○着替えや食事、排泄など身の回りのことは一人で行えるが、排泄で拭かないときがあるので、確認している。</p> <p>○挨拶、言葉でのやりとりができる。</p> <p>○自分から気持ちや体調について話すことができる。</p> <p>○友達を思いやり、「大丈夫？」などと言葉を掛けたり、助けたりする。</p> <p>○係の仕事に責任をもって取り組む。教師の手伝いをすることが好きである。</p> <p>○教師だけでなく友達に対しても積極的に話す。</p> <p>△他者に一方的に話し、会話がかみあわないことがある。他者同士の会話に割り込んで会話をさえぎることがある。【人】【コ】</p> <p>△順番にこだわりがあり、自分の希望する順番になれないと不安定になる。【心】【環】</p> <p>△疲れてくると、活動に気持ちが向かなくなり、切り替えに時間が掛かる。自分の興味から外れた学習の時に机に伏せる姿が見られてきた。【心】【健】</p> <p>△取り組んでいる活動を止められたり、次の活動に不安があったりすると、「無理。」「できない。」と言ったり、泣いたりする。終了時間を事前に視覚的に伝えることで気持ちの切り替えができることが多い。【心】【環】【コ】</p>	

2 背景要因	～があればできる。～のため、困難が生じている(または)～できる。
<p><コミュニケーション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な大人に自分から気持ちを伝えようとする。 ・先生に興味があり、教師のまねをして友達に指示することがある。 ・自分の行動や発言などを否定されると、不安定になることが多い。 ・週明け独り言や人形との会話が止まらない。 <p><環境の把握></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一日の流れや予定を視覚的に示すと、次の活動が分かる。予定で気になるところがあると、何度も確認する。 <p><心理的な安定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちが不安定になったとき、関わる教師を変えて対応したり、時間を決めてクールダウンをしたりすることで気持ちが切り替えられるようになってきた。 <p><身体の動き></p>	

- ・歌やダンスが得意で、覚えた歌やダンスをみんなの前で歌ったり、踊ったりする。
- ・体力がなく、疲れると座って休んだり、「できない」と活動を辞めたりすることがある。(以前は、家庭でWiiスポーツをして体を動かしていたが、最近は一切やっていない。)

3 課題	1年後の姿 ※個別の指導計画年間目標または 学部卒業時の目指す姿でも良い
<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちが不安定になったときの、いくつかの対処法を知る。 ・活動や役割などの見通しをもち、最後まで活動する。 ・友達や教師の働き掛けを受け入れ、気持ちを切り替えて苦手なことに挑戦する。 ・相手の状況を考えて話す。 	
中心課題～この課題が改善されると、他の課題が改善につながる。	
<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちの切り替えがスムーズにできる。 ・正しい自己肯定感を高めたり、興味・関心を広げたりする。 	
4 目標	3に基づき指導した指導目標【関連する6区分(項目)】
<ul style="list-style-type: none"> ・視覚支援によって状況を理解し、今やらなければいけないことを考える。 【環(3)】 ・教師の働き掛けを受け入れて、気持ちを切り替えて活動に参加する。 【心(2)】 	
5 指導内容	教育活動全体を通した具体的な指導内容～配慮、環境設定、手立て(～できるように～する)
<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に活動に取り組むことができるよう、穴埋めの板書や挨拶などの役割をお願いします。 ・活動の見通しを持つことができるよう、学習の流れを視覚的に提示する。 ・気持ちの切り替え方法を身に付けることができるよう、適切な行動をした際に称賛したり、落ち着いている場面で適切な行動について視覚的に確認したりする。 	

☆成果

- ・疲れたときに気持ちが不安定になるが、気持ちを切り替えることが早くなった。
- ・以前より順番のこだわりがなくなった。(1番でないと、最後でよいと言うが、それ以降は普通である。)

☆有効だった手立て

- ・他者の会話に入ってきたり、相手の状況を考えずに話し掛けたりすることがあったが、ジェスチャーを交えながら順番を待つことや相手の状況を伝えることで状況が分かり、順番を待つことができた。
- ・ルールを視覚的に示すことで、授業中のテープやイラスト遊びが減った。

☆今後の課題

- ・自分勝手な部分が出てきた。嫌なことがあると、泣くことが増えてきた。
- ・ルールを守る。

学部	中学部	作成日		作成者	
年・組	2年	氏名			

児童・生徒の実態

・自分の得意なことや不得意なこと、自分の行動の特徴をある程度理解している。
 自分の意にそぐわない出来事に直面すると、語気が強くなったり、言葉が荒っぽくなったりする。
 ・座って行う学習よりも、実技教科や行動的な活動を好む。
 情緒の安定に、生活リズムの乱れや家庭での過ごし方が影響していることがある。
 好きなことや楽しいことをやりかけていると、次の活動に気持ちを切り替えることが難しい。
 自分から他者に関わっていくが、相手や状況にそぐわない乱雑な言葉や行動が見られることがある。

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・疲労の蓄積や、生活の不規則さが、気持ちの不安定の原因となることもある。	自分の意にそぐわない出来事に直面すると、語気が強くなったり、言葉が荒っぽくなったりする。	・自分の得意なことや不得意なこと、自分の行動の特徴をある程度理解している。			・自分から他者に関わっていくが、相手や状況にそぐわない乱雑な言葉や行動が見られることがある。

いくつかの指導目標の中で優先する目標

指導目標
・相手に自分の気持ちを言葉で伝え、落ち着いて行動できる。

指導目標を達成するために必要な項目

健康の保持					心理的な安定			人間関係の形成				環境の把握					身体の動き					コミュニケーション				
①	②	③	④	⑤	①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
○					○	○				○												○				○

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容
・相手への伝え方や話し方を確認したり、一緒に解決方法を考えたりする時間を設定する。 ・不安を言語化し、気持ちの安定につなげていく。

学部	中学部	作成日		作成者	
年・組	中3-1	氏名			

児童・生徒の実態

・初めてのことや見通しがもてないことには不安定な気持ちが強まり、「無理、嫌だ」など否定的な言動が多くなる。自分の発言で自らを興奮させ、癇癢につながることもある。癇癢はいつ、どこでも起こりうる。他者への不適切な関わりが増える前に自分から別室に移動できるようになってきた。

・慣れた活動や見通しがもてるに活動、学級などの小さな集団では、落ち着いて活動できるようになってきた。いろいろなことに気付き、優しい言葉掛けをするなど、頼りになることがある。

・自分の言動・行動について理解することは難しいが、相手の不適切な発言等については、強い口調で咎めることがある。

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・障害特性による自分の行動について、少しずつ考えられるようになってきた。	・苦手意識が強く、自分自身で不安感を強くすることもある。 ・落ち着く手段が未確立。	・人と関わることを好む。 ・得意不得意を理解することは難しい。	・周囲の話や動きに注意が向きすぎて、自分のことに集中できない時がある。		・相手の立場や気持ちを理解して発言することが難しい。

いくつかの指導目標の中で優先する目標

指導目標
・自己肯定感を高め、自分の気持ちをコントロールする方法を身に付け、落ち着いた気持ちで集団参加する。

指導目標を達成するために必要な項目

健康の保持					心理的な安定			人間関係の形成				環境の把握					身体の動き					コミュニケーション									
①	②	③	④	⑤	①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤					
			○		○	○	○	○			○		○																	○	○

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容		
・1週間単位、1日単位でスケジュールの確認をして、苦手な活動とできる活動を確認する。	・学校生活、家庭生活、社会生活で起こる場面を想定し、適切な行動や発言について考え、理解する。	・自己理解を進め、自分で気持ちをコントロールするための方法を考え、理解し、実践する。

自立活動実態シート（中学部3年生）

児童・生徒の実態
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣は身に付いている。面倒になって顔を洗わない、髭を剃らないことが時々ある。 ・ 水筒や学習用品などが必要であっても自分で理由を付けて持ってこないことがあるが、事前に伝えたり、メモしたりすることで、徐々に持ってくるようになってきた。 ・ 課題の提示や手伝い等の依頼をすると、断るような発言をしたり、人任せにして自分から行動しなかったりするが、見守っていると依頼どおりに取り組む。また、あえて不適切な言動をして気を引こうとすることがあるが、友達の様子をよく見ており、気遣う言葉を掛けたり、自分から遊びに誘ったりすることが多い。

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康状態は良好だが、朝食を抜いたり、夜遅くまで起きていたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊張や恥ずかしさから、人前に立つのが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ あえて反対の発言をしたり、人任せな行動をして相手の気を引く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 顔を右に傾けて文字を書く。 ・ 文字から情報を得て理解することが得意である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 猫背になって椅子に座ったり、肘をついたまま学習をしたりすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手を思いやる行動ができるが、関わりたくて不適切な言葉を使うことも多い。

【前期】

いくつかの指導目標の中で優先する目標

指導目標
<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の気持ちや状況、場を考えて、適切な姿勢や言葉の遣い方をする。

指導目標を達成するために必要な項目

健康の保持					心理的な安定			人間関係の形成				環境の把握					身体の動き					コミュニケーション									
①	②	③	④	⑤	①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤					
						○		○	○	○	○																				○

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達や教師など相手の気持ちを考え、肯定的な内容で会話をしたり、敬語での話し方をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルスキルトレーニングなどのワークシートに取り組み、適切な話し方を考え、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に正しい姿勢について話し合い、相手を見てあいさつしたり、正しい姿勢で話を聞いたりする。

【後期】

いくつかの指導目標の中で優先する目標

指導目標	
・相手の状況や場を考え、それに応じた適切な言葉の遣いや声の大きさと話す。	・周りの状況や場を考えて、自分から姿勢を整える。

指導目標を達成するために必要な項目

健康の保持					心理的な安定			人間関係の形成				環境の把握					身体の動き					コミュニケーション									
①	②	③	④	⑤	①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤					
						○		○	○	○	○																				○

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	
・適切な話し方や関わり方に気付き、高等部進学に向けた学習の中で、自分の行動を振り返ったり、ワークシートに具体的な行動を記入したりする。	・発表場面にふさわしい姿勢や声量を考え、実践する。

【個別の指導計画】

自立活動	前期	・相手の気持ちや状況、場を考えて、適切な姿勢や言葉の遣い方をします。	「正しい姿勢であいさつしよう」 ・あいさつ ・返事 ・姿勢の保持 「丁寧な話し方をしよう」 ・適切な言動 ・人との関わり	○	・あいさつをする相手の気持ちを考える時間を設けたり、ソーシャルスキルトレーニングなどのワークシートを用意したりする。 ・肯定的な内容で会話をしたり、言葉遣いを改めたりできるように、教師が手本となって丁寧語で会話をします。
	後期	・相手の状況や場を考え、それに応じた適切な言葉の遣いや声の大きさと話す。 ・周りの状況や場を考えて、自分から姿勢を整える。	「将来の自分を考えよう」 ・あいさつ ・返事 ・姿勢の保持 ・適切な言動 ・人との関わり		・適切な話し方や関わり方に気つくように、高等部進学に向けた学習の中で、自分の行動を振り返ったり、ワークシートに具体的な行動を記入したりする場面を設ける。 ・正しい姿勢について考えることができるように、話し合いの場や繰り返し練習する場面を設定する。

自立活動

R7.7.24

※別紙「ASD傾向のある児童生徒の時間における自立活動について」参照

<取り組んだこと>

☆依頼や交渉

- 気持ち的に「できない!」となり、T1「誰かにお願いする?」などの質問にも応じることが難しいとき、T2が本児側に立ち「どうしょっか。〇〇さんをお願いしてみる?」「先生と一緒にやる?」など提案・相談する
- ⇒「〇〇さんお願いします」など依頼できることがあった→依頼できたことを称賛

☆不安の解決方法の確認

- 遊ぶ時間が確保されないことへの不安を予測し、学級のホワイトボードに「ミニゆっくりタイム」というカードを作って掲示
- ⇒「ミニは嫌だ!」とカードを投げ捨てる
- 朝の活動で、個別のスケジュール表を見ながら日程を知ったり、楽しみや不安を確認したりする。「ゆっくりする時間がない」など不安なことを伝えてくれたときは、「この勉強のあと、ちょっとゆっくりできる時間あるよ」と伝え、スケジュール表に書き込む
- ⇒「分かったよ」と、活動にも落ち着いて取り組めることがあった
- 苦手という授業や集会の活動内容を確認し、どの活動なら参加できそうか相談する
- ⇒参加できる活動があるときは、「〇〇は出る」と答える。Tが「〇〇始まるよ」と呼びにいくと、急いで学習場所へ向かうことが多い

☆評価

- 活動に参加できたら、ご褒美的に本児の好きなキャラクターのシールを用意
- ⇒一時的にやる気につながったが、ご褒美に固執して興奮度が高まったり、できなかった活動に目が向いてしまったりした
- 学習活動が終わったあとに、できたことを中心に振り返って称賛する
- ⇒「あ、ありがとう」「〇〇得意だから」などと答える

<現時点での児童の変容>

- ・苦手という授業でも、活動のどこかには参加することが定着しつつあり、少しずつだが落ち着いて参加できる活動が増えた
- ・「〇〇嫌いだから!」でなく、「ちょっと〇〇したい」という伝え方が聞かれるようになった

ASD 傾向のある児童生徒の時間における自立活動について

R7.6 佐々木義範

○課題となる現状

- ・ 適応状況がよければ見守り、よくなければ対応するという状況で安定した学校生活を送ることが難しい。
- ・ 問題行動が起きた後に行う指導は効果が薄い。
- ・ 教員の対応の違いが、本人・保護者、学校職員間の混乱を生む。
- ・ SST などのトレーニングはできるが、学校生活での汎化が難しい。

○指導のキーワード

- ・ 本人主体
- ・ 成功体験
- ・ 自己理解
- ・ 自己肯定感
- ・ 依頼や交渉
- ・ 体験を通じた学び

○時間における指導の実際（通称「作戦会議」）

☆朝の活動で

- ・ セルフモニタリング（体調、気分、理由）
- ・ 日程や持ち物などの確認
- ・ 楽しみなこと不安なことの確認（不安なこと言えないことが多い）
- ・ 不安の解決方法の確認（教師の提案からスタート）

☆帰りの活動で

- ・ 評価（成功体験を中心に）

※上記の取り組みを本人が振り返られ得るよう蓄積する。

例)「チャレンジノート」「明日へのステップ」など名称を本人と決める。

使用したプリントや写真などポートフォリオ的に蓄積

○指導のゴール

- ・ 僕はもう、自分で交渉や依頼ができるので「作戦会議」は必要ありません。
- ・ 自分の成功体験を通して、「社会・集団（の矛盾）」を学ぶ。

話し合い活動における役割の固定化により自己肯定感を育む取組

	中学部1年 生徒Aさん
実態	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉スペクトラム症 ・WISC-V F S I Q 65であり知的には高いが、自分自身に自信がなく、自己選択・自己決定することや、自分から発言をすること、アイデアを出すことが苦手である。
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋を用いた話し合い活動においても、自分から付箋に記入することは少なく、教師の介入が必要であったので、付箋を整理する場面における司会の役割を与える。
変容	<ul style="list-style-type: none"> ・初めは抵抗感があったが、教師が手本を見せたり、司会を繰り返すことで自信がつき、一人でも司会を進め、付箋を整理したり、付箋のまとまりに見出しを付けたりできるようになった。 ・友達からも「司会といえば〇〇さん」「〇〇さんはまとめるのが上手」などと他者評価を受け、「そうかな・・・」と言いながらも、自分の得意なことに気付き始めている様子。 ・学習活動にも意欲的に取り組むことができた。
考察等	<ul style="list-style-type: none"> ・得意なことを生かして集団活動に参加することは、低い自己評価と高い他者評価をすり合わせることにつながり、適切な自己理解や自己肯定感を育むことに有効だったと感じる。

個別の指導計画 年間目標（自立活動）抜粋

教育的ニーズを達成するために必要な項目

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	(3)自己の理解と行動の調整に関する事	(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	(5)状況に応じたコミュニケーションに関する事
		(4)集団への参加の基礎に関する事			

教育的ニーズを踏まえた自立活動の重点項目

- ・自分の長所や短所を理解し、自己理解を深める。

手立て

- 得意なことを生かす活動を設定する。
- 友達と比較する場面を設定する。

自立活動の指導事例②

自分の苦手さを受け入れることを目指した自己理解に関する取組

	中学部1年 生徒Bさん
実態	<ul style="list-style-type: none"> ・軽度知的障害 ・自己評価が高い生徒で「自分は何でもできる」と考える傾向がみられ、自分の苦手なことに目を向けたり、受け入れたりすることが苦手である。
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なことは悪いことではない、苦手なことは友達に助けてもらえばよい、ということをお伝え、苦手なことや、そのことに対してどのような作戦（支援・配慮）が必要か、ということについて教師と一緒に整理する。 ・自分が苦手意識のある「忘れてしまうこと」については「メモをする」という作戦、「細かい動きが苦手」については「友達や教師に伝えて手伝ってもらおう」という作戦を考えた。
変容	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の学校生活の中で実践できるようになってきた。 ・これまでは「苦手なことは、頑張ればいつかできるようになる」という考え方だったために、「チャレンジすることは大切だが、作戦を考えることも大切だよ」ということをお伝えしたところ、納得できた様子だった。
考察等	<ul style="list-style-type: none"> ・プライドが高く適切な自己評価が難しかった本生徒にとって、「苦手なこと＝ダメなこと」という捉えであった。教師と一緒に作戦を考えることは、自分の苦手さと対応をセットで考えることができたために効果的であった。前向きに自分の苦手さと向き合うことができたと感じる。

個別の指導計画 年間目標（自立活動）抜粋

教育的ニーズを達成するために必要な項目

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(3)自己の理解と行動の調整に関すること	(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること
		(4)集団への参加の基礎に関すること			

教育的ニーズを踏まえた自立活動の重点項目

<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動を通して、適切に自己評価したり、自己理解を深めたりする。

手立て

<ul style="list-style-type: none"> →自分と友達を比べ、客観的に自分を見つめる機会を設定する。 →自己評価と他者評価をすり合わせる機会を設定する。
--

自発的要求の表出を引き出す取組

	小学部4年 児童Cさん
実態	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症、重度知的障害（DQ：25） ・表出言語はないが、手を引いたり、物を差し出したりすることで要求を伝える。 ・嫌なことや苦手なことに対しては、泣いたり、その場から離れようとしたりして意思を表出する。 ・呼名に対しては、目を合わせたり、手を挙げて反応したりする。 ・給食や朝の運動などの特定の場面で教師の言葉と模倣を繰り返すことで「ください」「ちがう」のハンドサインを出せるようになってきた。
取組	<p>①VOCAアプリ「DropTalk」を活用して、教師と一緒に昼休みに過ごす場所を決め、他の教師に伝えてから移動することを繰り返した。</p> <p>②VOCAアプリ「DropTalk」を活用して、朝の会で天気のを行った。</p>
変容	<p>①自分からタブレット型端末を教師に持って来るようになった。</p> <p>②繰り返し行ったことで、やり方を覚えて一人で取り組めるようになった。友達の反応を見てから進行するようになった。</p>
考察等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習への達成感を感じる様子が見られ、本児の内言語の理解につながったと感じる。今後は、様々な場面で活用するための児童に合わせたカードの作成や、場面に合わせたタブレット型端末の使い方を検討していく。

個別の指導計画 年間目標（自立活動）抜粋

教育的ニーズを踏まえた自立活動の重点項目

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	(1)情緒の安定に関する事	(1)他者とのかかわりの基礎に関する事	(1)保有する感覚の活用に関する事	(3)日常生活に必要な基本動作に関する事	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事
	(2)状況の理解と変化への対応に関する事	(4)集団への参加の基礎に関する事	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	(2)言語の受容と表出に関する事

項目を関連付けた自立活動の目標

・欲しい物の写真カードを選び、教師に「お願い」のサインと発声で伝えたり、タブレット型端末を使ってやりたいことを伝えたりする。

手立て

→選択することで自分の要求が伝わる機会の設定。
→サインや発声、タブレット型端末を使って教師と一緒に要求を伝える機会の設定。

3 各校の関連資料

【様式1】コアプロブレム チェックシート

学部・学年 中学部2年 幼児児童生徒氏名

区分1 健康の保持		✓
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関すること	✓
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関すること	✓
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関すること	
(4)	障害の特性理解と生活環境の調整に関すること	
(5)	健康状態の維持・改善に関すること	
特記事項 (1) 食事量が少なく、体力がなく疲れやすい。「疲れた」と話すことが多い。 (2) 生理が始まって間もないため、処理の方法や生理前後の体調の変化の把握に慣れる必要がある。		
区分2 心理的な安定		✓
(1)	情緒の安定に関すること	✓
(2)	状況の理解と変化への対応に関すること	✓
(3)	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	
特記事項 (1) 新しい環境に適応するまでに時間が掛かり体調を崩しやすい。 (2) 移動や行動(着替え)に時間が掛かる。		
区分3 人間関係の形成		✓
(1)	他者とのかかわりの基礎に関すること	✓
(2)	他者の意図や感情の理解に関すること	✓
(3)	自己の理解と行動の調整に関すること	
(4)	集団への参加の基礎に関すること	✓
特記事項 (1) 相手からの働きかけに対し、嫌な気持ちを態度で表すことがある。 (2) 授業中に私的な話題になり、気持ちが高揚する。(4) 日常生活の常識などを身に付けさせたい。		
区分4 環境の把握		✓
(1)	保有する感覚の活用に関すること	✓
(2)	感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること	
(3)	感覚の補助及び代行手段の活用に関すること	✓
(4)	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること	
(5)	認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	✓
特記事項 (1) 体の動かし方がぎこちない。(3) 書字に時間を要するため、代替手段としてタブレット端末などを活用する。(5) 行動に時間が掛かり、時間を意識した行動を目指したい。		
区分5 身体の動き		✓
(1)	姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること	✓
(2)	姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関すること	
(3)	日常生活に必要な基本動作に関すること	✓
(4)	身体の移動能力に関すること	
(5)	作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	✓
特記事項 (1) 体の可動域が狭く、動きがぎこちない。(3) 手指の巧緻性が課題 (5) 体のぎこちなく、手指の巧緻性や動作の速さが課題		
区分6 コミュニケーション		✓
(1)	コミュニケーションの基礎的能力に関すること	✓
(2)	言語の受容と表出に関すること	
(3)	言語の形成と活用に関すること	✓
(4)	コミュニケーション手段の選択と活用に関すること	
(5)	状況に応じたコミュニケーションに関すること	✓
特記事項 (1) 自分の好きな話題に夢中になりすぎて、話が一方的になることがある。 (3) 間違った認識をして覚えている語句がある。(5) 時や場に応じた言葉遣いや態度に課題が見られる。		
その他実態に関すること		

【様式2】コアプロブレム シェアシート

学部・学年	中学部 2年	幼児児童生徒氏名	
-------	--------	----------	--

記入者【 】

1 課題に関連するキーワード

<p>1 (1) 食事の量、時間、衣替え、身だしなみ、整理整頓、体力</p> <p>1 (2) 清潔の保持、健康管理</p> <p>2 (1) 情緒の把握、不安な気持ちを表現する、自分の良さに気づく</p> <p>2 (2) 的確な援助依頼</p> <p>3 (1) 信頼関係の構築、他者との適切な距離感</p> <p>3 (2) 場に応じた適切な行動</p> <p>3 (4) 相手の受け止め方の理解、日常生活上のルールや常識等の理解</p> <p>4 (1) 聴覚や触覚の活用、においの活用、自身の体位や動きの把握と調整</p> <p>4 (3) 視覚補助具やタブレット型端末の効果的な活用</p> <p>4 (5) 時間や手順を意識した行動</p> <p>5 (1) 正しい運動・動作の習得</p> <p>5 (3) 指を握ったり開いたりする、日常生活の諸動作の獲得</p> <p>5 (5) 両手の協応、動作の正確さの向上、動作の速さの向上、動作の持続性の向上</p> <p>6 (1) 語彙力</p> <p>6 (3) 抽象的な言葉の理解、正しい言葉の意味の理解、文章による表現、 体験による言葉の理解や概念の形成</p> <p>6 (5) 目上の人との会話、言葉遣い</p>

2 中心的な課題

<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末や視覚補助具を自主的に活用すること。 ・時や場、相手に応じた適切な言葉遣いと態度を身に付け、実践すること。 ・体の動かし方を覚えたり、手指の巧緻性を高めたりして動き方や動作の速さを向上させる。
--

3 共通実践事項、特記事項、配慮点

<p>①タブレット端末や視覚補助具を自主的に活用すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・iPadでの平仮名入力、録音、録画、撮影など日常的に学習に生かせる場面を設定する。 ・アイロンビーズでの制作や文字の読み取り等、iPadや拡大読書器等を活用する場面を設ける。 <p>②時や場、相手に応じた適切な言葉遣いと態度を身に付け、実践すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人と接するときのマナーを理解し、人との関わり方や適切な言葉遣いについて考えたり実践したりする場面を設定し、生活に汎化する。 ・相手の立場に立って多角的に気持ちを想像することを繰り返し、語彙力や文章力の向上にもつなげる。 ・家庭や学校、社会で自分ができる役割について考え、実行する機会を設ける。 ・自分で考えた意見を伝えられるように、待つ姿勢を保ち、動機付けを工夫する。 <p>③体の動かし方を覚えたり手指の巧緻性を高めたりして、動作の速さを向上させること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指先の感覚を鍛える活動や体の動かし方を覚えるために日常生活動作と結び付けたり、ダンスやゲーム的な要素を生かした活動を取り入れたりする。

4 次年度の重点事項

<p></p>

他者との関わりを通して自己理解を深め、主体的に行動しようとする姿を目指した取組

～令和6年度、令和7年度の各学年の実践から～

第4分科会

秋田県立聴覚支援学校 熊谷 風花、 畠山 阜
鈴木 るみ子、小玉 暁子

【概要】本校の中・高等部段階で転学や進学してきた生徒たちは、自己肯定感の低さや環境の変化による戸惑いを多く抱えている。本稿では、自己理解の育成や自己肯定感を高めることを目的とした教育的実践について述べる。アプローチの仕方は多様だが、生徒が他者との関わりや体験的な活動を振り返り、感情や価値観を言語化することで自己と向き合う姿が見られた実践事例を紹介する。

【キーワード】 自己肯定感 自己理解・内省 仲間との関わり ロールモデル

1 はじめに

令和7年度の本校高等部の在籍生徒は6名であり、そのうち半数は地域の中学校から本校に転学や進学した生徒である。こうした生徒の多くは、手話によるコミュニケーションに不慣れであり、入学当初は友達や教師との関わりに戸惑いを見せる。また、地域の小・中学校では、聴覚的に不十分な教育環境の中で不安を抱えながら生活してきた経験から、「聞き返すことをためらう」「分からないことがあっても仕方ないと諦めている」といった消極的な態度が見受けられ、様々な場面での自己肯定感の低さや自信のなさが見られる。本稿では、3事例を取り上げ報告する。

2 対象生徒の実態

(1) R6高3A

両耳に人工内耳を装用。コミュニケーション手段は聴覚口話。高等部卒業後は他県へ就職。

(2) R7高1B

右耳に人工内耳、左耳に補聴器を装用。主に補聴器を活用して音声を聞き取り、コミュニケーション手段は聴覚口話。大学進学を希望。

(3) R7高3C

両耳に補聴器を装用。コミュニケーション手段は手話と聴覚口話。大学進学を希望。

3 指導の実際

(1) R6高3A

生徒Aは、初対面の人と日常会話ができることから、自ら「聞こえにくさ」を相手に伝える経験はなかった。会話は単語の羅列が多く、文章は理解できる言葉を手掛かりに大まかに理解していた。

高等部卒業を控えた12月、自立活動の授業において、「こんな時どうする？」という単元を実施した。卒業後に直面する可能性のある場面を取り上げ、対応方法を考えることで自己理解を深め、「一人でできる」という自信をもたせることをねらいとした。(自立活動の内容1(4)2(3)6(3)(5))

交通事故の場面、市役所での手続き、通院等の生活場面を取り上げ、学級の聞こえにくい友達の考えを取り入れながらロールプレイを重ね、対応

方法を考えることに取り組んだ。さらに、将来への見通しをもち、主体的に行動しようとする態度を育てたいと考え、ロールモデルである成人の聴覚障害者による体験談やアドバイスを聞く機会を設けた。以下が学習後の本生徒の感想である。

- ・相手に聞こえにくいことを伝えた方がゆっくり話してくれて分かりやすくなる。
- ・専門用語が多い場面では、遅くなるけれど筆談が分かりやすいし、安心感がある。

生徒Aは、学習を通して予め「聞こえにくさ」を伝えること、相手や状況に応じた配慮を選択して丁寧に依頼することの大切さを実感した。専門用語が多く聞き間違いが許されない場面では、筆談の確実さを実感し、自ら筆談を求める姿勢が見られた。ロールモデルから助言を受け、生徒の意識が「遠慮」から「前向きな配慮の依頼」へと変化し、セルフアドボカシースキルの育成につながった。

(2) R7高1B

生徒Bは、中学校の難聴学級に在籍していた。交流学級では聞き漏らしたことを友達に聞いて情報を得ていた。学年相応の漢字の読み書き能力及び読解力を備えているが、入学当初の作文は短文が多く、敬語表現や文章構成に課題が見られた。

① 自立活動の時間における指導での取組

a 異学年合同学習「聞こえの説明」を通して

自分の聞こえの特性についてまとめ、他者に言語化して伝える学習活動を行った。

(自立活動の内容1(4)2(3)3(2)6(4)(5))

以下が、本生徒の説明である。

- ・聞こえ：テレビの声は字幕がないと分かりづらい。左の補聴器の方が聞こえやすい。
- ・周囲へのお願い：はっきり大きく話してくれると嬉しい。

学習後の生徒の感想から、聞こえにくさを補うために生活環境を整える必要性を意識し、発表することができた。同じ聞こえにくさがある仲間(先輩や友達)の聞こえ方の違いに気づき、相手に応じた伝え方の必要性が分かった。また、意見の相違に着目して話を聞くことで、聞こえにくさからくる人との関わり方の困難さや効果的な周囲への働き掛けについて考えを深める機会となった。

b 大学見学時の情報保障の学習を通して

大学見学で施設を見学する際と模擬講義を受ける際に必要な情報保障と依頼の仕方を考え、実践する機会を設定した。

(自立活動の内容 1 (4) 2 (3) 3 (2) 6 (4) (5))

生徒Bは、大学見学をきっかけに初めて「情報保障」に触れた。ノートテイクやパソコン要約筆記、音声認識アプリ等の特性や利点を理解し、場面を想定した学習を通して、場面や相手に応じて適切な情報を組み合わせて活用する経験をした。以下は事前学習で体験した際の生徒の感想である。

- ・タイムリーに情報を得たい。
- ・確実に理解するために文字情報が必要だ。

話す人の内容を全てタイムリーに得たいという思いが芽生え、遠慮がちであるが、ノートテイクや音声認識アプリの利用を依頼したいと変化が見られた。大学見学では、聞こえにくい仲間が存在が緊張感を和らげ、初対面の相手に依頼できた。以下は本生徒が大学教授に依頼した内容である。

僕たちは聞こえづらいので、マスクを外して大きくはっきりと話していただきたいです。このロジャーのマイクは音声認識アプリに接続しているので、首からかけていただけるとありがたいです。

依頼によって分かりやすい環境を整えることができ、確実に情報が得られることで学習内容に集中できることを実感した。

② 全教育活動における自立活動の指導の取組

a 社会で活躍する多様な聴覚障害者(ダンサー、デブアスリート、俳優等)と出会う機会の設定。

(自立活動の内容 2 (3) 3 (2) 6 (3) (5))

夢に向かって諦めずに努力を重ね、力強く生きる姿は生徒に大きな刺激を与えた。リーダーとして周囲を率いる姿に憧れや尊敬の念が芽生え、自己の生き方を考える機会になっている。

b テーマ日記 (作文)

生徒が心を動かされた出来事やその時の心情を言語化し、自己をみつめる力を育成することを目的に、毎週テーマ日記に取り組んでいる。

(自立活動の内容 2 (3) 3 (2) 6 (3) (5))

教師は、生徒の記述内容や日常の様子に見られる努力や成長について具体的に引き上げてリフレーミングすることを重視している。これにより、生徒は「自分は認められている」と内省へ結び付き、自己肯定感の醸成や生活の安定にもつながっていると考える。当初は短文や表面的な記述が多かったが、継続する中で本音や葛藤、気づきを表出し、思考や表現の深まりが見られている。テーマ日記を通して自己を見つめ直し、仲間の意見から考えを広げ、ロールモデルの体験談から示唆を得ることで、その時々素直な思いを表現するようになり、さらに積み重ねにより、聞こえにくさを前向きに受け止める姿勢が芽生えつつある。

(3) R 7 高 3 C

生徒Cは、転学してきた当初は聞こえにくさによる困難さをあまり自覚していない面があった。一方、語彙が少なく自分の気持ちや考えを具体的かつ適切に表現することを苦手としていた。

高等部の行事「弁論大会」に向けて原稿作成に取り組んだ(2月実施)。本活動では、自分の経験や気持ちの変化を整理して言語化し、自己の考えを深める力を育てることや論理的な文章構成や適切な表現をする力を養うことをねらいとした。

(自立活動の内容 1 (4) 2 (2) (3) 3 (3) (4))

弁論のテーマを「一人のろう者として」とし、これまでの経験を振り返り、健聴者の中で過ごして感じたこと、転入後の変化、社会で活躍するろう者や全国各地の同年代のろう者との出会いを通して考えたことをまとめた。以下は発表原稿の一部である。

以前は話を理解しないまま聞き流すことも多かったが、手話のおかげで相手の話を理解できるようになった。今は場面や相手によって口話と手話を使い分け、確実にやり取りできるようにしている。(ろう者と)手話という共通の手段で会話をし、お互いの考えを共有できる手話の魅力を改めて感じた。

私もろう者としての誇りをもって生きたいと思うと同時に、ろう者がたくさんいる世界に踏み出したくなった。ろう者だからこそ送れる人生があると私は思う。これから出会う仲間と一緒に聴覚障害があっても明るく生きていける社会をつくっていきたい。

発表内容には、自己理解や障害認識の深まりが表れ、ろう者として前向きに生きようとする強い思いが表れていた。教師が普段から生徒の思いを丁寧に受け止め、共に考え後押ししてきたことで内省につながり、前向きな気持ちが引き出され、内面の感情を包み隠さず語るようになった。一人学級でありながら先輩と手話で率直に会話できるようにもなり、部活動の大会では他校の友達もできた。さらに、ロールモデルとの出会いに刺激を受け、気持ちが変容し、進学を目指して進路を変更した。目標が定まったことで精神的にも安定し、あらゆる面で前向きに行動する姿が見られている。

4 まとめ

自己理解を深め、主体的に行動する力を育成する上で、3事例に共通して有効であったのは、聞こえにくい仲間やロールモデルとの対話を意識した授業構成、社会で活躍する聴覚障害者との交流、自己を振り返り内面を言語化する活動の積み重ね、そして教師からの継続的なフィードバックである。その結果、自らの言葉で内面を語る場面が増え、他者を意識した関わりが促進されている。発信に消極的だった生徒も段階的な取組を通して自らの行動を考え、実際の行動へ移す主体的な姿が見られるようになった。今後も具体的な機会を計画的に設定し、自己の生き方を考える力につなげたい。

令和7年度		個別の指導計画B-2 年間単元・題材一覧【自立活動のみ抜粋】							秋田県立聴覚支援学校 高等部1年 ○○ ○○				
教科領域	(教科書名等)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	テーマ	補・人工・赤外	聞こえ	発音・語音弁別、助詞	自己理解	他者理解、コミュニケーション	聾者や聾者の歴史、法律など	生き方・将来	福祉				
自立活動	帯(SHR・家庭学習)	○ニュース紹介 ○スピーチ ○日本語(文法、敬語等) ○テーマ日記・作文 ○日本語検定・読字力検定 ○手話(CL、空間等) ○読書紹介等											
	(合同)	・自己紹介(聞こえ、コミュ手段含む)、機器	・オーディオグラム見方・生活音・どうする?	・明瞭度検査・語音弁別検査、助詞	・トリセツ紹介・先輩に学ぶ		・多様なコミュニケーション、情報の取り方	・デフリンピックを応援しよう	・暗唱週間 ・職業の欠格条項	・先輩と語る会 ・先輩に学ぶ		・弁論大会・福祉機器、障害者割引(等級)	・情報保障と手話通訳
	(学級)行事関連・書く(振り返る・作文)活動	・暗唱発表会課題選択	・運動会を終えて(作文)・暗唱週間		1学期のまとめ(作文)		・学習発表会に向けて・高文連に向けて	・学習発表会を終えて(作文)・高文連を終えて(作文)	・先輩から学んだこと(作文)	・弁論大会の構成を考える・弁論大会に向けて	・弁論大会に向けて・弁論大会を終えて(作文)	・お別れの言葉・1年間の振り返り(作文)	・卒業式に向けて
	(学級)	補聴器・人工内耳の管理／補聴システム・プログラム切り替え	聴覚障害の種類／身体障害者手帳／優遇制度	身の周りの生活音・環境音／自分の発音・聞き取り	補聴器・人工内耳の管理(夏)／トリセツづくり①	情報保障(代替手段)の種類	大学の情報保障の体験(体験談)／お店や病院などのコミュニケーション	秋田県立聴覚支援学校の歴史／デフリンピック(スポーツと聴覚障害者)	障害者差別解消法・合理的配慮／障害者に係る欠格条項の見直し	情報保障のメリット・デメリット	トリセツづくり②	情報保障(自治体)の申請	緊急通報(緊急時の連絡手段)

令和7年度		個別の指導計画B-2 年間単元・題材一覧【自立活動のみ抜粋】							秋田県立聴覚支援学校 高等部2年 ○○ ○○				
教科領域	(教科書名等)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	テーマ	補・人工・赤外	聞こえ	発音・語音弁別、助詞	自己理解	他者理解、コミュニケーション	聾者や聾者の歴史、法律など	生き方・将来	福祉				
自立活動	帯(SHR・家庭学習)	○ニュース紹介 ○スピーチ ○日本語(文法、敬語等) ○テーマ日記・作文 ○手話(CL、空間等) ○読書紹介等											
	(合同)	・自己紹介(聞こえ、コミュ手段含む)、機器	・オーディオグラム見方・生活音・どうする?	・明瞭度検査・語音弁別検査、助詞	・トリセツ紹介・先輩に学ぶ		・多様なコミュニケーション、情報の取り方	・デフリンピックを応援しよう	・暗唱週間 ・職業の欠格条項	・先輩と語る会 ・先輩に学ぶ		・弁論大会・福祉機器、障害者割引(等級)	・情報保障と手話通訳
	(学級)行事関連・書く(振り返る・作文)活動	・暗唱発表会課題選択	・運動会を終えて(作文)・暗唱週間	聴力測定、職場実習に向けて	高文連に向けて	・学習発表会に向けて	・学習発表会を終えて(作文)	・先輩から学んだこと(作文)	・弁論大会の構成・弁論大会に向けて	・弁論大会に向けて、終えて(作文)	・お別れの言葉・1年間の振り返り(作文)	・卒業式に向けて	
	(学級)	聴力測定、合同学習の準備と振り返り	合同学習の振り返り暗唱練習		職場実習の振り返り、合同学習の振り返り	学習発表会に向けて、合同学習の振り返り	合同学習の振り返り	暗唱練習 合同学習の振り返り	合同学習の振り返り 弁論大会に向けて	合同学習の振り返り	合同学習の振り返り 電話リレーサービス等		

令和7年度		個別の指導計画B-2 年間単元・題材一覧【自立活動のみ抜粋】							秋田県立聴覚支援学校 高等部3年 ○○ ○○				
教科領域	(教科書名等)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	テーマ	補・人工・赤外	聞こえ	明瞭度・語音弁別、助詞チェック	自己理解	他者理解、コミュニケーション	聾者や聾者の歴史、法律など	生き方・将来	福祉				
自立活動	帯(SHR・家庭学習)	○ニュース紹介 ○スピーチ ○日本語(文法、敬語等) ○テーマ日記・作文 ○手話(CL、空間等) ○読書紹介等											
	(合同)	・自己紹介(聞こえ、コミュ手段含む)、機器	・オーディオグラム見方・生活音・どうする?	・明瞭度検査・語音弁別検査、助詞	・トリセツ紹介・先輩に学ぶ		・多様なコミュニケーション、情報の取り方	・デフリンピックを応援しよう	・暗唱週間 ・職業の欠格条項	・先輩と語る会 ・先輩に学ぶ		・弁論大会・福祉機器、障害者割引(等級)	・情報保障と手話通訳
	(学級)行事関連・書く(振り返る・作文)活動	・新入生を迎えて(入学式、歓迎会)	・運動会を終えて(作文)・暗唱発表会	・陸上競技会地区大会、県大会(作文)	1学期のまとめ(作文)	・学習発表会に向けて・高文連に向けて	・学習発表会を終えて(作文)	・先輩から学んだこと(作文)	・弁論大会の構成を考える・弁論大会に向けて	・弁論大会に向けて・弁論大会を終えて(作文)	・お別れの言葉・1年間の振り返り(作文)	・卒業式に向けて	
	(学級)	・自分の聞こえについてオーディオグラムの見方、聞こえ方の説明 自分にとって望ましい補聴器		・自分に必要な合理的配慮伝える手段 ・セルフアドボカシー	・入試出願(配慮申請、共通テスト出願) ・大学での情報保障	・入試出願(学校推薦型選抜) ・デフリンピック ・聴覚障害者の歴史・権利	・卒業後の生活 利用できる関係機関、情報保障の申請方法、障害者年金制度補聴器の調整等						

令和7年度 合同自立活動 年間計画

必ず、筆記用具とレシーバー、タブレットを用意してください。

※ロジャーを使いたい場合、T1の先生にそのことを伝えてください。

◎家の都合や大会など参加できない場合や授業のことで質問したい時は、直接 T1の先生に聞いてください。

	日時	内容	担当
1	4月25日	聞こえの自己紹介、先輩からの設備紹介	
	変更		
2	5月9日	オーディオグラムの見方(作成)、身の周りの生活音や環境	
	変更		
3	6月27日	明瞭度・語音弁別チェック(自分の聞こえを理解)	
	変更		
4	7月18日	トリセツ紹介(高1~3) ※発表→意見交換	
	変更		
5	9月12日	情報保障と情報の入手方法、多様なコミュニケーション	
	変更		
6	10月17日	デフリンピックについて	
	変更		
7	11月21日	職業の欠格条項など、法律に関すること	
	変更		
8	12月19日	社会で活躍している聴覚障害者を知る。	
	変更		
9	2月13日	福祉機器や障害者割引を知る(等級)。	
	変更		
10	3月6日	情報保障と手話通訳、パソコン通訳依頼方法	
	変更		

病気への自己理解を深める取組を通して

生徒の前向きな気持ちを育むキャリア教育の実践

学校名 秋田県立秋田きらり支援学校

発表者 教諭 ○○ ○○

1 はじめに

秋田県立秋田きらり支援学校（以下、本校）は、秋田県立医療療育センター（以下、医療療育センター）に隣接する肢体不自由特別支援学校である。令和7年度は、小学部から高等部まで100名が在籍しており、小・中学校、高等学校に準ずる教育課程（Ⅰ類型）、知的障害代替の教育課程（Ⅱ類型）、自立活動を主とした教育課程（Ⅲ類型）の他、医療療育センターや国立病院機構あきた病院、在宅での訪問教育を行っている。また、児童生徒の中には、医療的ケアを必要とする病弱児も在籍している。

本県には病弱教育単独の特別支援学校がないため、令和2年度に本校の運営組織の中に設置された「病弱教育サポートセンターきらり☆」がセンター的機能として、県内の病弱教育の推進と入院・療養中の幼児児童生徒への相談支援、教育活動支援を行っている。

本校の児童生徒数は減少傾向にあるが、その中でもⅠ類型の在籍数は少なく、令和7年度は、全校児童生徒数100名のうち、小学部4名、中学部5名、高等部2名である。

*R7：11名/100名 R6：9名/100名（Ⅰ類型在籍児童生徒数/全校児童生徒数）

2 対象生徒Aの実態

本校中学部3年の男子生徒である。魚鱗癬様紅皮症により、本校に小学部1年より在籍している。魚鱗癬様紅皮症とは、全身の皮膚が赤く、皮膚が乾燥して魚の鱗のように剥がれ落ちる病気であり、完全に治す方法はなく、全身にワセリンを塗るなどの対症療法が中心となる。また、発汗障害のために体温の調節ができず、暑い日は熱が上がりやすいため熱中症に注意する必要がある。日本での患者数は約200人と言われている稀な病気、指定難病である。Aは中学部の準ずる教育課程で学習しており、現在は二人学級である。Aには皮膚症状の他、右手の手指の癒着が見られるため、細かな作業が苦手であるが、左手を利き手として使用し、両手を使って作業することも多い。

3 指導方針

以下のような病気への自己理解を深める取組を通して、生徒の前向きな気持ちや社会性を育てることができると考え、本実践に取り組んだ。

- (1) 社会性を身に付け、生活や学習の中で自ら工夫していけるように、病気への自己理解を段階的に深め、生活の中で実践する。
- (2) 社会生活の中で自信をもって物事に取り組めるように、達成感を感じられるような活動や社会経験を増やす。
- (3) 進路や将来の生活についてイメージを広げ、前向きに希望や期待をもてるように、様々な人との関わりの場や、卒業生や同年代の仲間との交流活動を設ける。

4 指導の実際

(1) 病気の理解と自己理解

① 同じ病気の方との交流

Aは中学部に入學するまで、自分の病名や症状に関することについて詳しく理解していなかった。自己理解を深めるためには、自分の病気について知ることが必要であると考え、保護者面談の中で話を重ねながら、同じ病気の方との交流会を企画した。

魚鱗癬の会ひまわりのRさん(福岡県在住)に交流を依頼し、保護者の了解を得て、中学部1年生の11月にオンライン交流会を実施した。Aは事前に魚鱗癬の会より頂いた会発行の病気に関するパンフレットに強い関心を示し、自分の病気について初めて詳しく知る機会を得た(資料1)。

オンライン交流会の参加者は、福岡よりRさんと母、本校よりAと母、担任、学部主事、病弱教育専門監であった。会話の中では、通っている病院や薬のこと、学校生活や職場での工夫などが話題となった。Rさんからは、「病気について自分で説明できるようになってほしい」「病名を知って堂々と生きてほしい」「見られることを嫌がらずにいろいろな場所に行ってほしい」などのアドバイスが伝えられた。Aからは、「自分の病気をあまり理解していなかったので、病気について知ることができてよかった」「同じ病気の人が50人以上いることに驚いた」「ワセリン以外の薬について、もう少し詳しく知りたかった」「いつもどんなことに気を付けて過ごしているのかももっと知りたい」という感想が挙げられた。

② 自立に向けた清掃活動

Aは病気による皮膚片の落屑やワセリンによって周囲を汚してしまうことが日常的にある。社会に出た際にその汚れに自分で気づき、自分も周囲の人も快適に過ごせるように、教室清掃を丁寧に行うことや、移動教室の際に汚れた箇所を掃除するグッズを持ち歩くことなどを決めて実行した。

教室清掃は自在ぼうきでの皮膚片の掃き取りを中心に、手順を決めて行った。床に落屑した皮膚片の量を実感しながら清掃したり、衣服に付いた皮膚片を払い落とししたりする活動を通して、清潔な環境や身だしなみへの意識が高まってきた。

(2) 社会経験の拡充

① 公共交通機関の利用

Aは病気による症状やコロナ禍の情勢のため、中学部1年生まで路線バスや電車の利用経験がなかった。また、家庭生活の中で公共施設に行く機会も少なく、社会経験が乏しい現状だった。中学部1年生の5月に、路線バスを使ってショッピングセンターへ行く校外学習を実施した。事前に乗車するバス停や時刻、購入する品物やお店を調べて、当日に臨んだ。店内ではエスカレーターに乗る際に、経験のなさから乗るタイミングがつかめず一歩が踏み出せない状況だったが、タイミングを伝えて何度か繰り返し練習した。帰校後には、「店内がにぎやかで楽しかった」「エスカレーターに上手に乗れるようになった」「路線バスの中で財布から小銭を出すのが難しかった」等の体験を通じた感想が挙げられた。これらの体験や感想を基に、7月の校外学習でAkiCA(交通系ICカード)を自分で購入した。

10月には、職業体験として動物園での飼育作業体験を実施した。その際、移動に路線バスや電車を利用し、財布から小銭を出す必要がないAkiCAを使ってスムーズに移動できた(写真2)。



資料1:魚鱗癬のパンフレット



写真1:教室清掃の様子

職業体験で、自分の関心のある仕事を体験し、職業や社会の仕組みを体感しながら理解し、自分で何ができるのかを考える機会となった。

② 美術展の入賞と社会経験の広がり

(ア) 肢体不自由児・者美術展での受賞

Aは絵を描くことが好きであり、美術の授業では自分の発想を生かしながら水彩画や油絵などの制作に取り組んだ。中学部1年生の夏に描いた「僕の畑でとれた野菜をもりもり食べる僕」は、第42回肢体不自由児・者の美術展で特賞（オリックス賞）を受賞し、12月に東京で行われた授賞式に両親と共に参加した。

これまではAの全身症状により皮膚片やワセリンで周囲を汚してしまうことから、公共交通機関の利用は躊躇していた家族の思いがあった。この美術展での受賞により、公共交通機関（新幹線）を利用した初めての家族旅行が実現し、7月に購入したAkiCAを東京で利用し、様々な社会経験を広げることができた。

(イ) あーと展覧会での受賞

Aが中学部2年生の秋に油絵で描いた「秋田犬だー！」（資料2）という絵は、第4回あーと展覧会2024で応募411点の中から最優秀賞に選ばれた。この絵が、翌年2月に滋賀で行われた「障害者の文化芸術国際フェスティバル」に展示されることとなり、滋賀の展示会場にAが招待されて両親と共に参加した。初めて飛行機に乗り、滋賀や京都の観光も行い、社会経験の幅が更に広がった。

(3) 様々な人との関わり

① 居住地校生徒との交流

(ア) 特別支援学級生徒との交流

Aは本校に在籍してから、保護者の意向で居住地校交流を実施していなかったが、本人の希望もあり保護者と相談を重ね、中学部1年より、居住地にある中学校の特別支援学級に在籍するKさんとの交流を開始した。7月にオンラインで初めて交流し、自己紹介の中で互いの学校のことや病気のことについて話をした。地元の話で通じることもあり、夏休み中に直接会いたいと、Aは自分から希望を伝えた。本人の願いを受けて、夏休みに中学校にて直接会う交流会を実施した。交流会には、Kさんと両親、担任、本校からはAと父、担任が参加した。初めて行った居住地の中学校では、互いに緊張している様子が見られたが、病気は違っても共感できる仲間との交流を通して、自分の地元や仲間への興味、関心が更に高まった。交流以降、Kさんとは年に数回、定期的にオンライン交流を続けている。

(イ) 通常学級生徒との交流

Kさんとの交流を受けて、中学部2年より居住地の中学校の通常学級との交流を開始した。交流前には本校教員が居住地校に赴いて障害理解授業を実施し、途中でAがオンラインで自己紹介する場面もあった。

交流は通常学級の日課で一日体験することとし、年3回実施した。最初は緊張した様子で、居住地校の生徒から話し掛けられることが多かったが、次第にAは自分から積極的に友達の輪に入って話をするようになった。2回目の交流では、本校よりボッチャセットを持参し、Aが自分で制作したスライドを基にボッチャのルールについて説明して（写真3）、ユニバーサルスポーツを通して交流を深めた。3回目の交流後には、居住地校の生徒の振り返りシートで、「自分と同じ学区に住んでいるということに最初とても驚いたが、話していくうちに打ち解けた」「ボッチ



写真2：AkiCA利用の様子



資料2：秋田犬だー！

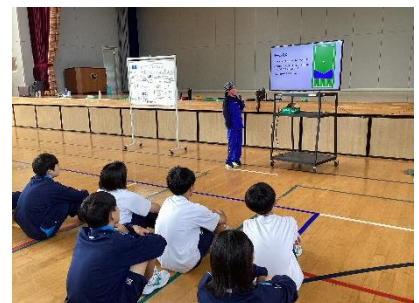


写真3：ボッチャ説明の様子

ヤが楽しかった」などの感想が聞かれた。Aは3回の交流を通して、「地元の友達と遊びたい」という気持ちが高まった。

② 卒業生との交流

中学部1年生の2月に、本校卒業生Sさんとオンラインで交流する時間を設けた。Sさんは全身の皮膚疾患のために、日常生活の中で配慮することがたくさんあり、交流の中でAに向けて丁寧に説明してくれた。Aは、「本校在学時にどんなことに気を付けて生活していたか」「仕事に向けて何の資格を取ったのか」という質問内容を事前に考えて伝えた。会話を通して、働くことの大変さや、一般就労、福祉就労とは何かについて考えを深めていった。



写真4：オンライン交流の様子

また、中学部2年生の9月には、身体障害のある本校卒業生Hさんとのオンライン交流を実施した(写真4)。Hさんは現在関東方面で大学生活を送っており、大学で学んでいること、一人暮らしのこと、高校時代の話などをAに伝えてくれた。交流を通して、大学生活や一人暮らしへ憧れる気持ちが高まった。

(4) 将来の夢に向けた活動

中学部入学時、Aは将来の夢として棋士を挙げていた。将棋が好きで、棋士への憧れもあったが、将棋で真剣勝負をする機会は少なかった。校内の教職員や友達との対局「きらり名人戦」「きらり王将戦」を自立活動の時間に企画し、中学部1年生の夏と冬、中学部2年生の夏と冬にそれぞれ七番勝負を実施した(写真5)。対局前には、対局の依頼や事前連絡、教室清掃も行うことにした。これらの勝負を通して、将棋の楽しさ、読みを考える楽しさ、人と関わる楽しさを感じることができた。また、真剣勝負を通して、上手の教員との対局後には悔しさから涙する場面もあった。Aからは「将棋の対戦を通して強い人がたくさんいることを知った」「棋士になりたいが、今のままでは難しそうだ」「効果的な攻めやもう一手先を読んで、攻めと守りのバランスをもっとうまくなりたい」等の感想が挙げられた。



写真5：きらり名人戦の様子

将棋への興味の高まりを受けて、日本将棋連盟に所属する市内の将棋教室の講師へ体験を依頼し、中学部2年生の10月に本校で実施した。対戦と指導を通して将棋のアマチュア6級を認定していただき、Aの自信につながった。講師の先生からは、オンラインで対局できるサイトがあることや、将棋教室、将棋大会のことを教えていただいた。大好きな将棋を通して、Aの余暇活動が充実していくことを期待したい。

5 まとめ

自分の病気について知り、症状や対処法への理解を深めることで、日々の生活の仕方に変化が現れた。清掃活動を通して落屑した皮膚片の量を実感し、より丁寧に清掃することにつながった。公共交通機関や公共施設の利用経験が増えたことで、社会の中で自分ができることに自信をもち、利用する際の配慮事項について学ぶことができた。また、将棋の活動を通して人との関わりが増え、「美濃囲い」等の戦法を学び、自主的に努力を続けるようになった。居住地校交流や卒業生との交流を通して、中学部卒業後の進路についても、本校高等部だけでなく、高等学校進学を選択肢の広がりや将来の就職、一人暮らしなどへの興味や意識の変化にもつながっている。

今後は将来の夢をもちつつ、社会生活のイメージを具体化し、生活や学習上の目指す姿を更に明確にしていく必要がある。自己理解を更に深め、生活の質の向上につながる取組を続けていきたい。

6 参考文献

- ・魚鱗癬紹介パンフレット（魚鱗癬の会ひまわりや専門の医師による監修）

令和7年度 中学部 自立活動 年間指導計画

年組・氏名	3年3組 ○○○○		前期	後期	合計
担当者		計画時数	20	20	40
標準時数	週1時間×35週=35時間	実施時数	20		
指導目標 (年間)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体調について理解し、自ら進んで自分の体や環境を快適に保つ。 ・自分に合った道具の使い方や手指の動かし方を身に付ける。 ・人と関わることや公共の場を利用する機会を設け、自分でできることを増やす。 				

月	計画時数	実施時数	指導目標 (学期)	題材名・主な学習活動	実施時期	題材毎の 評価・反省
前 期	4	4	<時間における指導> ・自ら進んで皮膚ケアや身の回りの清掃を行い、自分の体や環境を快適に保ちながら活動する。 【健(2)(3)(4)(5)】 ・人と関わることや公共の場を利用する機会を設け、自分でできることを増やす。 【心(3)】【人(3)(4)】【環(4)(5)】【コ(5)】	○飛躍 Part 1 ～JUMP UPを目指して～ ・計画作り ・校外学習 ・将棋～名人戦Ⅲ ・将棋教室	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・不衛生さが相手に与える印象を考える場面を設定し、身だしなみを整えるためのチェック表を作成し、更衣室に掲示した。不十分なきももあるものの、そのことで、着替えの際に肩や腕、ズボンなどを自身で整えることにつながった。 ・事前に将棋対局を依頼することは、教師からの指示で行うことが多いものの、日時と場所、対局に向けた自分の気持ちを伝えることについては、適切に話すことが定着した。
	5	4				
	6	4				
	7	3				
	8	1				
	9	4				
後 期	10	4	<各教科等における指導> ・自ら進んで皮膚ケアや身の回りの清掃を行う。 【健(2)(3)(4)(5)】 ・自分に合った道具の使い方や手指の動かし方を身に付ける。 【身(5)】	・使った場所の清掃 ・乾燥する部位の保湿 ・道具の使い方の工夫	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休みに担当教員が不在時に、男性職員にワセリンを塗ることを依頼できた。また、自教室以外での学習終了後に、小箒を使用して、机といす、床を清掃するように継続した。細かいごみのチェックなどまだ見届けが必要である。 ・各教科での道具の使い方について、安全に配慮しながら、見守りで対応できた。
	11	4				
	12	4				
	1	2				
	2	4				
	3	2				
前 期	10	4	<時間における指導> ・自ら進んで皮膚ケアや身の回りの清掃を行い、自分の体や環境を快適に保ちながら活動する。 【健(2)(3)(4)(5)】 ・人と関わることや公共の場を利用する機会を設け、自分でできることを増やす。 【心(3)】【人(3)(4)】【環(4)(5)】【コ(5)】	○飛躍 Part 2 ～JUMP UPを目指して～ ・校外学習 ・将棋～竜王戦 ・居住地校交流準備 ・受検に向けて	通年	
	11	4				
	12	4				
	1	2				
	2	4				
	3	2				
後 期	10	4	<各教科等における指導> ・自ら進んで皮膚ケアや身の回りの清掃を行う。 【健(2)(3)(4)(5)】 ・自分に合った道具の使い方や手指の動かし方を身に付ける。 【身(5)】	・使った場所の清掃 ・乾燥する部位の保湿 ・道具の使い方の工夫	通年	
	11	4				
	12	4				
	1	2				
	2	4				
	3	2				

④ 行動理解・心理的側面への支援についての事例紹介

- 1 対象生徒 中学部2年男子
- 2 実態 自立活動実態シート参照
- 3 実践内容

<R6の実践から> R6 中学部1年集団学習（生活単元学習の中で）

○ 単元名 「自分のワンアップ」(心理的な安定、人間関係の形成、コミュニケーション)

○ 設定の背景

友達同士で運動的な遊びや会話を楽しむことができる集団である。それぞれ自己中心的な言動も多く、トラブルに発展することもあるが、友達との関わりの中で少しずつ相手の気持ちを考えて行動できるようになってきた。気持ちのもやもやを処理できずに暴言や暴力に至ってしまう生徒、過去の経験から自分の思いを伝えることが難しい生徒等、心理的な安定や人間関係の形成、コミュニケーションの面で課題が多かった。

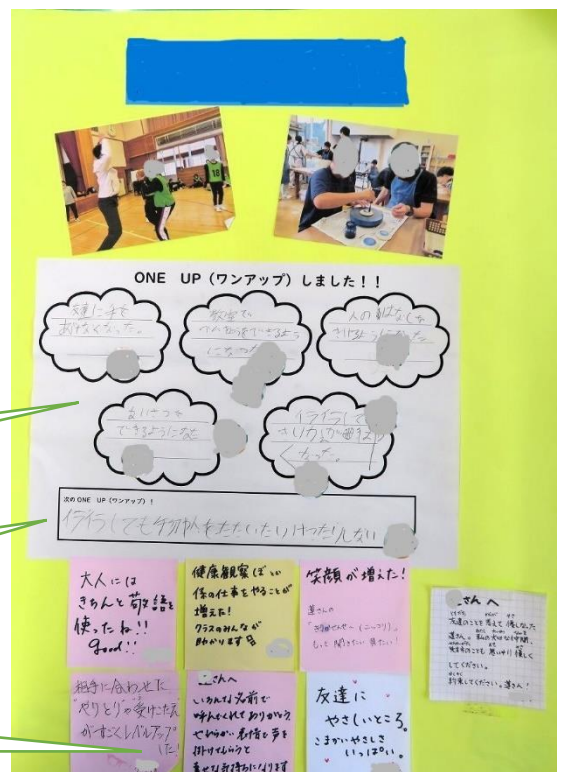
○ 内容

本単元は年度末の振り返りの学習である。自分がワンアップ（成長）したことを振り返り、次のワンアップ（目標）を考え、心理的な安定、人間関係の形成、コミュニケーションに関わる自分を自己評価する。また、廊下に掲示してたくさんの人から付箋にメッセージを記入してもらい、他者からのプラスの評価を受ける。（自己肯定感を高める機会）

（年度初め：自分たちで考えたルールやマナーを基に、自分がどのように生活したらよいかを考えた。学期末ごと：「できるようになったこと」「もっとがんばりたいこと」について自分を振り返り、互いに発表し合った。）

○ 成果

ワンアップしたこととして自ら挙げた5つは、教師が想定していた内容とほぼ同一のものであったことから、自分の成長を実感していることが分かった。教師や友達と対話をしながら記入したことで、どんな理由でできるようになったか、成長の過程や変遷を確かめながら振り返ることができた。ポジティブな思考で自分自身と向き合い、振り返る様子が見られた。次年度に成長したいこととして「イライラしても物をたたいたりけったりしない」と自らワークシートに記入した。



今年度成長したこと

次年度成長したいこと

他者からの肯定的評価



＜次年度に向けて立てた仮説＞
イライラした気持ちを言語化して身近な大人に聞いてもらうことで、不適切な行動をする前に気持ちをコントロールできるのではないか

R7 自立活動 年間目標及び前期目標

＜年間目標＞

- ・自分の心理状態について教師に相談したり、どのように行動すればよいか一緒に考えたりする。

＜前期目標＞

- ・気持ちを安定させて行動するために、教師と一緒に対応策を考える。



具体的な指導内容・手立て

対象生徒は自閉症スペクトラム障害の診断を受けており、生活上における問題行動の大きな要因として、(1) 学習活動等への不安感、(2) コミュニケーション上の課題や、良好な人間関係を築くことの困難さといった二点が推測された。

(1) に対しては、主に日常生活の指導における「朝の活動」、「朝の会」の時間帯に、個別の学習活動予定表を用意し、必要に応じて本人と対話をしながら一日の予定を確認した。また、学校行事等の日常と異なる場合は、より詳細に活動予定を伝え、参加の仕方を一緒に考えた。このことで、活動内容に加え、活動時間や集団の規模、参加が難しい際の代替活動等に対する見通しももてるようにした。

(2) については、まず重視したのが、自分の心理状態を言語化し、担任に伝えることで問題行動に移る前にクールダウンや気持ちの切り替えを図ることである。特定の指導の形態ではなく、本人が苛立ちや不安等を感じているストレス状態の際、即時的に対応することを継続した。本人へのアプローチの手順としては、①本人の苛立ちや不安の要因となっていることを尋ねる→②その要因を除去するための方法を本人と一緒に考える→③担任に自分の気持ちを伝えられたことを称賛し、今後もすぐに担任等身近な教師に話をすることを伝えるといった流れで行った。

現在までの変容

(1) については、4～5月までは集団の大きな学習の際には時間いっぱい参加することが難しく、他の教室に移動し、身近な教師を呼び出して会話をするなどして過ごすことが多かった。個別の学習予定表を提示するようになってからは、自分のできそうな活動や興味のある活動が用意されていることを知ると、少しずつ学年集団の中で学習に取り組む時間が増えてきた。運動会の練習なども練習計画や時間等を詳細に伝えることで最後まで参加できるようになった。現在は、自分から「今日〇時間目は何やるの?」「〇〇の時間は何時までやるの?」と活動内容や時間を担任に尋ねるようになり、学習予定表を活用しなくても、自分で見通しをもつために行動できるようになってきた。

(2) については、今年度担任が代わり、本人が話をしてくれるようになるまで1か月弱を要したが、徐々に「今日〇〇がうるさくて、腹が立った。」などと話をするようになった。5月ぐらいまでは、担任に暴言を吐いたり、教室内の物品を投げ散らかしたりという粗暴な言動が目立っていたが、そうした際も、落ち着いた後に①～③のアプローチを継続した。6月中旬以降、「〇〇があってイライラしているけど、どうすればいい?」「おれ、今日暴れてしまいそうなんだけど、止めてくれる?」といった発言が現れるようになった。これ以降、自分から担任や身近な教師にこのような相談をすることが増え、大きな問題行動を起こすことがほとんどなくなった。本人の中にも、教師に相談することで自分の苛立ちや不安に対処できるという理解ができたと推測される。

(1)、(2)の手立てを通じて、本人自身自らの変化を自覚できているようである。(1)については、学校祭の予行の場面で、昨年よりも参加できる時間が大きく増えたことで、「おれ、去年だったらすぐ(会場から)出ちゃってたと思う。」という発言があった。(2)については、1学期の終わり頃に担任に対して、「おれ、変わったかな。」という発言があった。このように、自分の成長を自覚できたことも、問題行動の減少や様々な学習場面に安定して参加するといった姿につながっていると推測される。